

1年次 個人と社会 (MYP2 Individuals and Society) 【社会：3単位】

科目のねらい

すべての MYP 科目のねらいでは、教師が指導すべきこと、生徒が経験し学習すべきことを提示しています。また、これらのねらいには、学習体験によって生徒がどう変わり得るかが示されています。MYP の「個人と社会」のねらいは、生徒に以下のことを促して、習得させることです。

- 人間と環境に見られる共通点や多様性を認識すること
- 個人、社会、環境の相互作用や相互依存性を理解すること
- 環境の体系と人間の体系がどのように作用し進化していくかを理解すること
- 人間のコミュニティと自然環境の健やかさについて、問題点を特定し啓発すること
- 地域及びグローバルなコミュニティの責任ある市民としての行動すること

探究のスキルを養い、個人と社会とそれらが生きる環境との間の関係性を概念的に理解すること

目標および評価規準 (Year 3)

MYP 評価観点	
A：知識と理解	i. 文脈に合った一定範囲の用語を使う。
	ii. 記述や説明、または事例を通して、科目ごとの内容と概念についての知識と理解を示す。
B：調査探究	i. 明確かつ的の絞られた研究課題を設定または選択し、その関連性を説明する。
	ii. 研究課題を調査するための行動計画を策定し実践する。
	iii. 関連性の高い情報を収集し記録するための方法を活用する。
	iv. 指導を得て、研究のプロセスと結果を評価する。
C：コミュニケーション	i. 受け手と目的にとって適切な方法で、情報や考えを伝達する。
	ii. 課題の指示に従って、情報や考えを構成する。
	iii. 引用文献のリストを作成し、情報源に言及する。
D：批判的思考	i. 概念、問題点、モデル、視覚表現、理論を分析する。
	ii. 情報を要約して、有効かつ論拠のある主張を行う。
	iii. 幅広い情報源やデータを出典や目的という観点から分析し、その価値や限界を考察する。
	iv. さまざまなものの見方を認識し、そこに含まれる意味を説明する。

※ねらい・目標・評価規準の記述は、IBO 発行の「Individuals and Society guide」に基づいています。

関連概念（個人と社会の学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます）

地理			
因果関係	文化	格差と公平	多様性
グローバル化	管理と関与	ネットワーク	パターンとトレンド
力・権力	過程	規模	持続可能性

歴史			
因果関係	文明	対立	協調
文化	統治	アイデンティティー	イデオロギー
革新と革命	相互依存	ものの見方	重要性

年間計画（学習指導要領観点①知識・技能、②思考力・判断力・表現力等、③主体的に学習に取り組む態度を示す）

時期	ユニット	1. 重要概念 2. グローバルな文脈 3. ATL	学習内容・教材等	総括的評価課題のMYP評価観点（【 】内） および課題概要と評価方法	1. 学習指導要領 観点との対応 2. 道徳内容項目 とのつながり
前期 （4月～9月）	1	1. 変化 2. 空間的 時間的位置 づけ 3. 整理整頓	歴史的分野 A 歴史との対話 B 近世までの日本とアジア 教材：教科書（歴史）、地図帳、 『人口から見る日本史』	「調査計画書」「調査レポート」【A】【B】【D】 古代までの日本がどのように変化し国家を形成していったのか考察することで現在の日本から古代の国家形成を評価する。	1. 【A】-① 【B】-③ 【D】-② 2. A-1
	2	1. 時間、場所、空間 2. 科学技術の革新 3. コミュニケーション スキル	地理的分野 C 日本の様々な地域 (1) 地域調査の手法 教材：教科書（地理）、地図帳、 地形図	「調査計画書」「プレゼンテーション資料」【B】【C】 身近な地域において、自らの興味関心に応じてテーマを設定し、地域の特性を左右する要因を特定する。 観察や野外調査、文献調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方、地形図や主題図の読図、目的や用途に適した地図の作成などの技能を用い、身近な地域調査を行う。	1. 【B】-③ 【C】-① 2. C-16
後期 （10月～3月）	3	1. 体系 2. グローバル化と持続可能性 3. メディアリテラシー スキル	地理的分野 A 世界と日本の地域構成 ② 日本の地域構成 C 日本の様々な地域 (2) 日本の地域的特色と地域区分 (3) 日本の諸地域 (4) 地域の在り方 教材：教科書（地理）、地図帳	「調査計画書」「調査レポート」【A】【B】【D】 以下の考察の仕方を用いて、日本の諸地域を考察し、地域の変化の要因を分析する ①自然環境を中核とした考察の仕方 ②人口や都市・村落を中核とした考察の仕方 ③産業を中核とした考察の仕方 ④交通や通信を中核とした考察の仕方 ⑤その他の事象を中核とした考察の仕方	1. 【A】-① 【B】-③ 【D】-② 2. C-17
	4	1. 変化 2. アイデンティティと関係性 3. 批判的思考スキル	歴史的分野 B 近世までの日本とアジア (2) 中世の日本 (3) 近世の日本 教材：教科書（歴史）、地図帳	「ポスター」【C】 武家政権が全国に広まる時代を武将のリーダーシップから考察することでリーダーに必要なスキルを特定する。	1. 【C】-② 2. C-15

2年 個人と社会 (MYP3 Individuals and Society) 【社会：3単位】

科目のねらい

すべての MYP 科目のねらいでは、教師が指導すべきこと、生徒が経験し学習すべきことを提示しています。また、これらのねらいには、学習体験によって生徒がどう変わり得るかが示されています。MYP の「個人と社会」のねらいは、生徒に以下のことを促して、習得させることです。

- 人間と環境に見られる共通点や多様性を認識すること
- 個人、社会、環境の相互作用や相互依存性を理解すること
- 環境の体系と人間の体系がどのように作用し進化していくかを理解すること
- 人間のコミュニティと自然環境の健やかさについて、問題点を特定し啓発すること
- 地域及びグローバルなコミュニティの責任ある市民としての行動すること

探究のスキルを養い、個人と社会とそれらが生きる環境との間の関係性を概念的に理解すること

目標および評価規準 (Year 3)

MYP 評価観点	
A：知識と理解	i. 文脈に合った一定範囲の用語を使う。
	ii. 記述や説明、または事例を通して、科目ごとの内容と概念についての知識と理解を示す。
B：調査探究	i. 明確かつ的の絞られた研究課題を設定または選択し、その関連性を説明する。
	ii. 研究課題を調査するための行動計画を策定し実践する。
	iii. 関連性の高い情報を収集し記録するための方法を活用する。
	iv. 指導を得て、研究のプロセスと結果を評価する。
C：コミュニケーション	i. 受け手と目的にとって適切な方法で、情報や考えを伝達する。
	ii. 課題の指示に従って、情報や考えを構成する。
	iii. 引用文献のリストを作成し、情報源に言及する。
D：批判的思考	i. 概念、問題点、モデル、視覚表現、理論を分析する。
	ii. 情報を要約して、有効かつ論拠のある主張を行う。
	iii. 幅広い情報源やデータを出典や目的という観点から分析し、その価値や限界を考察する。
	iv. さまざまなものの見方を認識し、そこに含まれる意味を説明する。

※ねらい・目標・評価規準の記述は、IBO 発行の「Individuals and Society guide」に基づいています。

関連概念（個人と社会の学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます）

地理			
因果関係	文化	格差と公平	多様性
グローバル化	管理と関与	ネットワーク	パターンとトレンド
力・権力	過程	規模	持続可能性

歴史			
因果関係	文明	対立	協調
文化	統治	アイデンティティー	イデオロギー
革新と革命	相互依存	ものの見方	重要性

年間計画

時期	ユニット	1. 重要概念 2. グローバルな文脈 3. ATL	学習内容・教材等	総括的評価課題のMYP評価観点（【 】内） および課題概要と評価方法	1. 学習指導要領 観点との対応 2. 道徳内容項目 とのつながり
前期 （4月～9月）	1	1. 変化 2. 公平性と発展 3. 批判的思考	歴史的分野 A 近世 武家政権の展開と世界の動き (1) 武士による全国支配の完成 (2) 天下泰平の世の中 (3) 社会の変化と幕府の対策 B 近代（前半） (1) 開国と幕府の終わり 教材：教科書（歴史）	「レポート」【A】【D】 近世の日本の特色を大観するとともに、江戸時代の統治方法や国内産業の発展、国際関係への対応について、他の時代との比較の視点から、その価値と限界を考察する。	1. 【A】-① 【D】-② 2. C-16
	2	1. 時間、場所、空間 2. 空間的・時間的位置づけ 3. 情報リテラシー	地理的分野 A 世界の姿・日本の姿 B 世界のさまざまな地域 (1) 世界各地の人々の生活と環境 教材：教科書（地理）、地図帳	「調査計画書」「ポスター」【B】【C】 世界各地における人々の伝統的な生活について、その特色が生み出された要因や生活の変容について、自然及び社会的条件と関連付けて考察し、発表する。	1. 【B】-③ 【C】-① 2. C-11
後期 （10月～3月）	3	1. グローバルな関わり 2. グローバル化と持続可能性 3. 創造的思考	地理的分野 A 世界の諸地域 (1) アジア州 (2) ヨーロッパ州 (3) アフリカ州 (4) 北アメリカ州 (5) 南アメリカ州 (6) オセアニア州 教材：教科書（地理）、地図帳	「レポート」「調査計画書」「スライド」 【B】【C】【D】 各州の地域的特色を大観するとともに、地域的特色が地球的課題に与える影響や要因を分析し、持続可能な社会づくりを考える視点から、地球的課題の解決策を提案する。	1. 【B】-③ 【C】-③ 【D】-② 2. C-12
	4	1. 体系 2. アイデンティティと関係性 3. 批判的思考	歴史的分野 C 近現代の日本と世界 (1) 近代の日本と世界 教材：教科書（歴史）	「レポート」【A】【D】 近代国民国家のシステムである憲法の作成に向けて歩み始めた日本において、当時の国内情勢と海外情勢を分析し、人民の権利と政府の力のバランスを意識した国の統治方法（憲法）の在り方を論じる。	1. 【A】-① 【D】-② 2. C-18

3年 個人と社会 (MYP 4 Individuals and Society) 【社会：4単位】

科目のねらい

すべての MYP 科目のねらいでは、教師が指導すべきこと、生徒が経験し学習すべきことを提示しています。また、これらのねらいには、学習体験によって生徒がどう変わり得るかが示されています。MYP の「個人と社会」のねらいは、生徒に以下のことを促して、習得させることです。

- 人間と環境に見られる共通点や多様性を認識すること
- 個人、社会、環境の相互作用や相互依存性を理解すること
- 環境の体系と人間の体系がどのように作用し進化していくかを理解すること
- 人間のコミュニティと自然環境の健やかさについて、問題点を特定し啓発すること
- 地域及びグローバルなコミュニティの責任ある市民としての行動すること

探究のスキルを養い、個人と社会とそれらが生きる環境との間の関係性を概念的に理解すること

目標および評価規準 (Year 5)

MYP 評価観点	
A：知識と理解	i. 文脈に合った広範囲の用語を使う。
	ii. 高度な記述や説明、または事例を通して、科目ごとの内容と概念についての知識と理解を示す。
B：調査探究	i. 明確かつ的の絞られた研究課題を設定し、その関連性を正当化する。
	ii. 研究課題を調査するための行動計画を策定し実践する。
	iii. 適切で多様、かつ関連性の高い情報を収集し記録するための研究方法を活用する。
	iv. 研究のプロセスと結果を評価する。
C：コミュニケーション	i. 受け手や目的にとって適切なスタイル（文体）を効果的に使用して、情報や考えを伝達する。
	ii. 特有的の形式にふさわしい方法で、情報や考えを構成する。
	iii. 広く認知された表現技法に則って、情報源を記録する。
D：批判的思考	i. 概念、問題点、モデル、視覚表現、理論について議論する。
	ii. 情報を統合して、有効かつ論拠のある主張を行う。
	iii. 幅広い情報源やデータを出典や目的という観点から分析・評価し、その価値や限界を考察する。
	iv. さまざまなものの見方とそこに含まれる意味を解釈する。

※ねらい・目標・評価規準の記述は、IBO 発行の「Individuals and Society guide」に基づいています。

関連概念（個人と社会の学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます）

総合社会科（経済・地理・歴史に基づく）			
因果関係	選択	文化	公平
グローバル化	アイデンティティー	革新と革命	ものの見方
力・権力	過程	資源	持続可能性

政治学・公民・行政学			
権威	市民権	対立	協調
グローバル化	政府	イデオロギー	統合・同化
相互依存	リーダーシップ	力・権力	権利

地理			
因果関係	文化	格差と公平	多様性
グローバル化	管理と関与	ネットワーク	パターンとトレンド
力・権力	過程	規模	持続可能性

歴史			
因果関係	文明	対立	協調
文化	統治	アイデンティティー	イデオロギー
革新と革命	相互依存	ものの見方	重要性

年間計画

(学習指導要領観点①知識・技能、②思考力・判断力・表現力等、③主体的に学習に取り組む態度を示す)

時期	ユニット	1. 重要概念 2. グローバルな文脈 3. ATL	学習内容・教材等	総括的評価課題のMYP評価観点(【 】内) および課題概要と評価方法	1. 学習指導要領 観点との対応 2. 道徳内容項目 とのつながり
前期 (4月～9月)	1	1. グローバルな関わり 2. 公平性と発展 3. メディアリテラシー	歴史的分野 C. 近代の日本と世界 (1) 近代の日本と世界 (2) 現代の日本と世界 教材「映像の世紀」	「レポート」【A】【D】 近代後半の日本や世界の戦争の歴史を踏まえて、平和のために「わたし」ができることについての考えをメディアリテラシーの観点から示す。	1. 【A】-① 【D】-② 2. A-1
	2	1. システム(体系) 2. アイデンティティーと関係性 3. 批判的思考スキル	公民的分野 C. 私たちと政治 (1) 人間の尊重と日本国憲法の基本原則 (2) 民主政治と政治参加	「レポート」【A】【C】【D】 日本国憲法や日本の政治の仕組みを踏まえ、より良い民主国家の在り方について考察するとともに、主権者として、「わたし」が政治にどのようにかかわっていけばよいか示す。	1. 【A】-① 【C】-① 【D】-② 2. C-11
後期 (10月～3月)	3	1. 変化 2. 空間的・時間的位置付け 3. 情報リテラシースキル	公民的分野 B. 私たちと経済 (1) 市場の働きと経済 (2) 国民生活と政府の役割 教材「日経STOCKリーグ」 教材「私たちの暮らしと税」	「(グループ)レポート」「スライド」 【B】【C】 経済活動における企業及び政府の役割を分析するとともに、「min-na」の幸福を持続させるための変化に対応するシステムについて、現在、そしてこれからの自らの在り方と関連させながら考察する。	1. 【B】-② 【C】-③ 2. C-12
	4	1. 時間・場所・空間 2. グローバル化と持続可能性 3. 創造的思考スキル	公民的分野 A. 私たちと現代社会 (1) 私たちが生きる現代社会と文化 (2) 現代社会を捉える枠組み D. 私たちと国際社会の諸課題 (1) 世界平和と人類の福祉の増大 (2) よりよい社会を目指して	「調査計画書」「レポート」【B】【C】 これまで3年間の学びの成果を生かし、国際社会における諸課題について、SDGsの視点から自ら研究課題を設定して調査・探究を行い、表現に工夫しながら示す。	1. 【B】-③ 【C】-③ 2. C-18

4年次個人と社会 (MYP 5 Individuals and Society) 【地理総合：2単位、公共：2単位】

科目のねらい

すべての MYP 科目のねらいでは、教師が指導すべきこと、生徒が経験し学習すべきことを提示しています。また、これらのねらいには、学習体験によって生徒がどう変わり得るかが示されています。MYP の「個人と社会」のねらいは、生徒に以下のことを促して、習得させることです。

- 人間と環境に見られる共通点や多様性を認識すること
- 個人、社会、環境の相互作用や相互依存性を理解すること
- 環境の体系と人間の体系がどのように作用し進化していくかを理解すること
- 人間のコミュニティと自然環境の健やかさについて、問題点を特定し啓発すること
- 地域及びグローバルなコミュニティの責任ある市民としての行動すること
- 探究のスキルを養い、個人と社会とそれらが生きる環境との間の関係性を概念的に理解すること

目標および評価規準 (Year 5)

MYP 評価観点	
A：知識と理解	i. 文脈に合った広範囲の用語を使う。
	ii. 高度な記述や説明、または事例を通して、科目ごとの内容と概念についての知識と理解を示す。
B：調査探究	i. 明確かつ的の絞られた研究課題を設定し、その関連性を正当化する。
	ii. 研究課題を調査するための行動計画を策定し実践する。
	iii. 適切で多様、かつ関連性の高い情報を収集し記録するための研究方法を活用する。
	iv. 研究のプロセスと結果を評価する。
C：コミュニケーション	i. 受け手や目的にとって適切なスタイル（文体）を効果的に使用して、情報や考えを伝える。
	ii. 特有的の形式にふさわしい方法で、情報や考えを構成する。
	iii. 広く認知された表現技法に則って、情報源を記録する。
D：批判的思考	i. 概念、問題点、モデル、視覚表現、理論について議論する。
	ii. 情報を統合して、有効かつ論拠のある主張を行う。
	iii. 幅広い情報源やデータを出典や目的という観点から分析・評価し、その価値や限界を考察する。
	iv. さまざまなものの見方とそこに含まれる意味を解釈する。

※ねらい・目標・評価規準の記述は、IBO 発行の「Individuals and Society guide」に基づいています。

関連概念（個人と社会の学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます）

総合社会科（経済・地理・歴史に基づく）			
因果関係	選択	文化	公平
グローバル化	アイデンティティー	革新と革命	ものの見方
力・権力	過程	資源	持続可能性

政治学・公民・行政学			
権威	市民権	対立	協調
グローバル化	政府	イデオロギー	統合・同化
相互依存	リーダーシップ	力・権力	権利

年間計画（ユニットの奇数は公共、偶数は地理総合）

（学習指導要領観点①知識・技能、②思考力・判断力・表現力等、③主体的に学習に取り組む態度を示す）

時期 ユニット	1. 重要概念 2. グローバルな文脈 3. ATL	学習内容・教材等	総括的評価課題の MYP 評価観点（【 】内） および課題概要と評価方法	学習指導要領 観点との対応
前期 （4月～9月）	1	1. 時間、場所、空間 2. 個人的表現と文化的表現 3. 情報リテラシースキル 学習指導要領 公共 第1編 A 公共の扉 (1)「公共的な空間を作る私たち」 (2)「公共的な空間における人間としての在り方生き方」 (3)「公共的な空間における基本的原理」 倫理分野	「レポート」【A】【C】 生涯における青年期の意義を理解させるとともに、社会参加、伝統や文化に触れながら自己の形成の課題を考察させる。基本的人権の保障、民主主義、平和主義と我が国の安全について理解を深めさせ、民主政治における個人と国家について考察させる。個人の尊重を基礎として、国民の権利の保障、法の支配やその意義・役割について理解するとともに、共生社会と個々の倫理観の醸成を図る。	①-A ③-C
	2	1. 時間、場所、空間 2. 公正性と発展 3. メディアリテラシー、 転移スキル 学習指導要領 地理総合 A. 地図や地理情報システムで捉える現代世界 (1) 地図や地理情報システム (2) 結び付きを深める現代世界 B. 国際理解と国際協力 (1) 生活文化の多様性と国際理解 教材「高等学校 新地理総合」（帝国書院）	「レポート」【A】【B】【D】 地図やGISの役割や有用性などを理解する。情報を収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける。位置や範囲、縮尺に着目し、目的や用途、内容、適切な活用の仕方を多面的・多角的に考察し、表現する。方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きを理解し、主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。世界の人々の生活文化を場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりに着目し、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	①-A ②-D ③-B
	3	1. 体系 2. グローバル化と持続可能性 3. コミュニケーションスキル 学習指導要領 公共 第2編 B 自立した主体としてよりよい社会形成に参画する私たち 政治分野 ・「法的な主体となる私たち」 ・「政治的な主体となる私たち」 教材「高等学校 公共」（第一学習社）	「レポート」【C】【D】 現実社会の諸課題に関わる具体的な主題を設定し、幸福、正義、公正などに着目して、他者と協働して主題を追究したり解決したりする活動を通して、自立した主体としてよりよい社会形成とは何かについて多面的・多角的に考察し、表現する。	③-C ②-D
後期 （10月～3月）	4	1. 変化 2. 科学技術の革新 3. コミュニケーションスキル 学習指導要領 地理総合 B. 国際理解と国際協力 (2) 地球的課題と国際協力	「レポート」【B】【C】 世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題を基に、地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などを大観し解決への取り組みに国際協力が必要であることを理解する。よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	③-B ②-C
	5	1. グローバルなかわり 2. 公平性と発展 3. 批判的思考スキル 学習指導要領 公共 第2編 B 自立した主体としてよりよい社会形成に参画する私たち 経済分野 ・「経済的な主体となる私たち」教材「高等学校 公共」（第一学習社）	「ユニットテスト（小論文）」【A】【D】 グローバル化が進展する国際社会における政治や経済の動向に触れながら、国際社会における諸問題について理解させ、国際社会における日本の役割及び個人の生き方について考察する。	①-A ②-D
	6	1. 時間・場所・空間 2. アイデンティティと関係性 3. 自己管理スキル 学習指導要領 公共 第3編 C 持続可能な社会づくりの主体となる私たち 学習指導要領 地理総合 C. 持続可能な地域づくりと私たち (1) 自然環境と防災 (2) 生活圏の調査と地域の展望	「レポート」【B】 人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を養う。 「レポート」【C】地理の重要な概念である「人間と自然環境との相互依存関係」を学ぶ。自然環境と防災についてよりよい社会の実現を視野に、ハザードマップや地形図を用い、課題に対して主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	③-B ①-C